



序章: タスク・シフト／ シェアと医療DX／WX

熊本大学病院 | 池田龍二

医療DXとWXは、タイムパフォーマンスを大幅に向上させ、VUCA時代に適応する上で重要な役割が期待される。医療DXは、技術を活用して医療データを効率的に処理し、情報共有を改善することで、迅速かつ正確な意思決定を支援する。また、WXは、タスクシフトやシェアを通じて、医療従事者の業務を再構築し、より柔軟で効果的な働き方を促進する。

Medical DX and WX are expected to significantly improve time performance and play an important role in adapting to the VUCA era. Medical DX utilizes technology to efficiently process medical data and improve information sharing, thereby supporting quick and accurate decision-making. Furthermore, WX restructures medical professionals' tasks through task shifting and sharing, promoting more flexible and effective work methods.

はじめに

2024年4月から医師の働き方改革がスタート¹⁾し、医療機関内での労務管理の適正化とタスク・シフト／シェアの推進が取り組まれている。さらに、現代はVUCA時代と称され、「Volatility (変動性)」、「Uncertainty (不確実性)」、「Complexity (複雑性)」、「Ambiguity (曖昧性)」の4つの特性が示すように、先行きが不透明で将来予測が困難な状況が続いている。このような中、医療DX令和ビジョン2030が示され、医療DX (Digital Transformation) による新たな方向性が示された。

本項では、タスク・シフト／シェアの推進と医療DX／WXを活用した実践的な戦略、技術的な挑戦、そして解決策を提案し、タスク・シフト／シェアと医療DX／WXの未来について考察する。

タスク・シフト／シェアの 推進と医療WX

医師の働き方改革を推進する一助として、タスク・シフト／シェアの推進が挙げられる。この推進のためには、各専門職種の業務範囲の拡大と明確化が必要であり、一部の業務については法改正が実施された。「法令改正を行いタスク・シフト／シェアを推進するもの」²⁾として、厚生労働省の「医師の働き方改革を進めるためのタスク・シフト／シェアの推進に関する検討会」の資料を参照されたい。各職種の専門性を活かし、患者により質の高い医療を提供することが期待されている。

各医療従事者を取り巻く環境にも変化が生じており、より安全で効率的な業務実施が求められている。これはまさに医療WX (Work Transformation: ワークトランスフォーメーション) である。

医療DXとは?

最近、「医療DX」というキーワードを多く耳にするが、その定義や意味をしっかりと理解している人は多くないようだ。厚生労働省のホームページに掲載されている「医療DXとは」によると、医療DXは「保健・医療・介護の各段階 (疾病の発症予防、受診、診察・治療・薬剤処方、診断書等の作成、診療報酬の請求、医療介護の連携によるケア、地域医療連携、研究開発など) において発生する情報やデータを、全体最適された基盤 (クラウドなど) を通じて、保健・医療や介護関係者の業務やシステム、データ保存の外部化・共通化・標準化を図り、国民自身の予防を促進し、より良質な医療やケアを受けられるように、社会や生活の形を変えること」³⁾と定義されている。また、その中で目指す方向性として、「医療DX令和ビジョン